KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL 九大病院ニュース

NEWS

2025|3
vol.47

01 特集 福岡県摂食障害支援拠点病院の九州大学病院
－西日本唯一の摂食障害支援拠点病院として－

02 難治性呼吸器疾患の克服に向けて

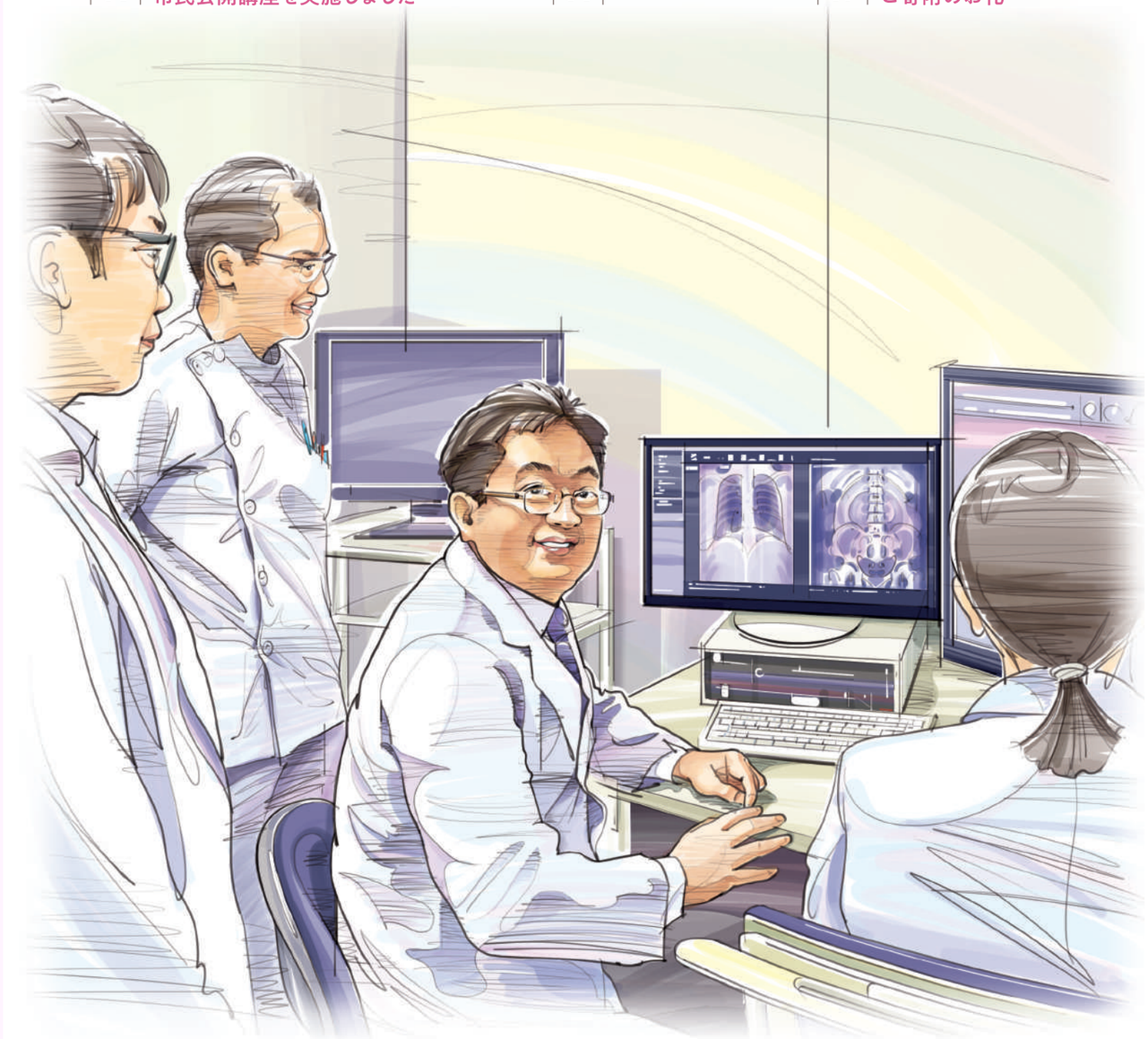
03 術後疼痛管理チーム

04 臨床工学部門のご紹介

05 令和6年度 第3回九州大学病院別府病院市民公開講座を実施しました

06 九大病院トピックス

07 九大病院基金へのご寄附のお礼



［表紙イラスト］ 放射線科の画像診断の様子

九州大学病院
Kyushu University Hospital

2025年3月発行
企画・発行／九州大学病院広報委員会
福岡市東区馬出3−1−1　TEL:092-642-5205（総務課広報室）
https://www.hosp.kyushu-u.ac.jp

NEWS 01

福岡県摂食障害支援拠点病院の九州大学病院

―西日本唯一の摂食障害支援拠点病院として―

心療内科/講師　髙倉 修

摂食症（摂食障害）とは？

摂食症（摂食障害）は若い女性に多く、ダイエットを契機に発症することの多い疾患です。戦後わが国では、その頻度は増加傾向で、欧米同様「やせ」を礼賛する社会風潮が少なからず影響しているものと考えられます。

摂食症は長期化すると引きこもりや家族関係の悪化を招くなど病態は複雑となり、治療に難渋することも多い疾患です。特に神経性やせ症は食べずに痩せたり、食べて吐いたりすることによる身体の合併症が生じるばかりか、不安やうつなど心の症状も合併します。

平成27年 九州大学病院に福岡県摂食障害支援拠点病院を設置

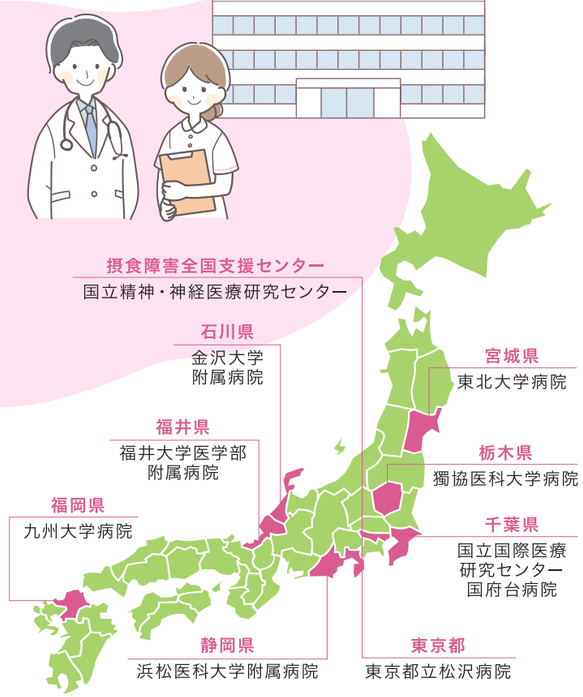


図1：全国の摂食障害支援拠点病院

摂食症の専門治療施設の不足は近年の課題でした。そのため、学会等では摂食症の治療を担うセンターの設立を求め署名活動が行われていました。

こうした中、平成26年度から厚生労働省と都道府県による摂食障害治療支援センター運営事業が開始され、平成27年度に1ヶ所の全国基幹センターと全国内3県に支援センターが設置されました。当院心療内科の診療と研究の実績が評価され、初期支援センターの一つとして九州大学病院に福岡県摂食障害治療支援センターが設置されました。

なお、令和3年4月より、他の事業との名称統一を図るため、福岡県摂食障害支援拠点病院（以下、支援拠点病院）に改称されました。当初は各県に設置される予定でしたが、現在は千葉県や東京都など8都県での事業展開にとどまっています（図1）。

摂食障害支援拠点病院の役割について

さて、ここからは支援拠点病院の役割についてご紹介します（図2）。

1 摂食障害対策推進協議会

対策推進協議会は摂食症専門医師や県内有識者だけでなく、当事者やその家族などで構成されています。事業策定、指標策定、効果検証、問題点の抽出、提言を行う組織として機能しています。

2 相談支援

相談専門のコーディネーターを1名配置し、患者や家族からの相談を電話、メール、面談で受け付け、受診や対応に関する助言を行っています。年間300名超の相談者に個別対応しています。

3 医療機関への助言・指導

摂食症を診療できる医療機関を増やすため、専門外の医療施設に対し、摂食症の病態や治療法、対応方法などの研修を行っています。その結果、福岡県内の診療可能な医療機関は着実に増加しています。

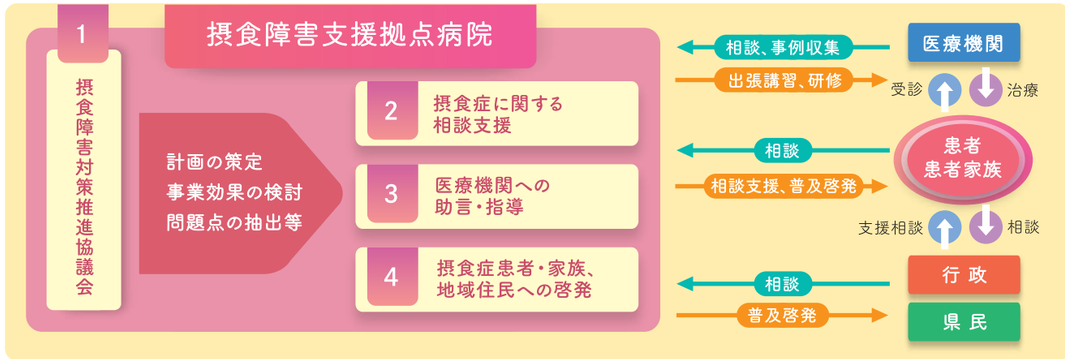


図2：福岡県摂食障害支援拠点病院の事業内容

4 患者・家族、地域住民への普及啓発活動

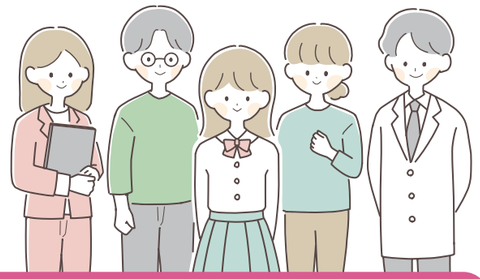
患者のみならず患者家族や関係者への摂食症に関する正しい知識に基づいた治療上の助言は重要です。そこで、患者や家族、地域住民のための公開講座を定期的に開催しています。

また、摂食症は思春期に発症のピークを迎えることから、早期発見・早期治療には学校との連携が不可欠です。そこで、学校関係者に対する講習会を開催しています。そして、疾患に関するリーフレット（図3）を作成し、県内全校に配布しています。その結果、当院心療内科では近年10代の若い患者さんが増加しています。

当院では最新の摂食症治療法の開発・導入や病態解明の研究を行い、福岡県内の摂食症医療ネットワーク構築を目指し、拠点病院として機能しています。西日本唯一の福岡県支援拠点病院としての当院の取り組みが全国の支援拠点病院のモデルとなるよう努力していきたいと考えています。

図3：福岡県摂食障害支援拠点病院の利用案内リーフレット

最後に、ご自身や周囲で、食事を摂らず極端に痩せていたり、過食や嘔吐に悩む方がいらっしゃいましたら、以下の福岡県摂食障害支援拠点病院相談窓口へご相談ください。



問い合わせ先／092-642-4869（月・水・金 9:00～16:00 ※祝日除く）info@edsupport-fukuoka.jp

NEWS 02

難治性呼吸器疾患の克服に向けて
～呼吸器内科の取り組み～

呼吸器内科長/教授　岡本 勇

幅広い対象疾患、他の診療科との深い連携が特徴の診療科

呼吸器内科診療は感冒（かぜ）から肺がんまで対象疾患の守備範囲が広いことや、院内において他の診療科との関わりが深いことが特徴です。術前肺機能検査異常への対応、各診療科でおこる難治性肺感染症のケア、抗悪性腫瘍薬による薬剤性肺障害の診断・治療、胸部画像検査で認める胸部異常陰影の評価など、他の診療科から多くの依頼を受けています。腫瘍性呼吸器疾患を中心として診療科横断的医療が必要な患者さんに対しては、呼吸器外科、放射線科との合同カンファレンスを通してチーム医療を実践し、診療科間連携のさらなる充実を心がけています。また、当院におけるがん薬物療法の重要なプラットフォームとなる外来化学療法室にスタッフを派遣し、外来化学療法室での採血、ルート確保、アナフィラキシーやinfusion reaction※1への対応に加え、毎月各科から申請される治験・臨床試験・新規承認薬のがん薬物療法新規レジメンの審査に携わっています。

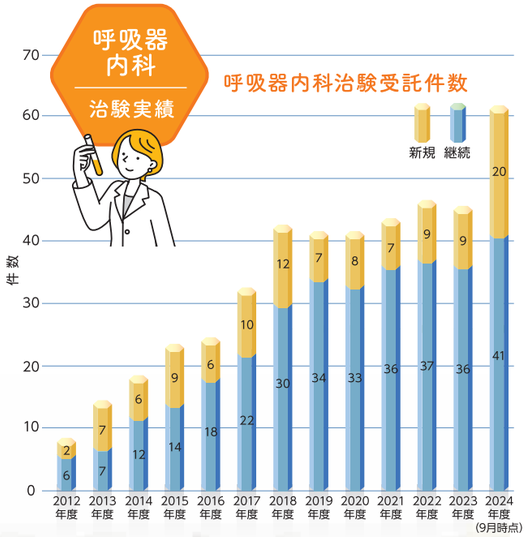
※1 薬剤投与中、または投与後24時間以内に現れる副作用のこと

活発な新薬開発治験への参加

呼吸器内科では大学病院という特性上、進行肺がんや間質性肺炎といった生命予後不良の難治性呼吸器疾患を多く診療しており、呼吸器内科病棟入院患者の約９割をこれらの疾患が占めています。肺がんに関してはゲノム医療に基づく分子標的治療、免疫チェックポイント阻害剤導入によりその治療成績が劇的に改善されており、新薬開発治験が活発です。間質性肺炎についても肺線維化機序の解明に基づく新薬開発治験がここ数年活発化してきました。

呼吸器内科は、これまでの臨床研究の実績をベースに多くの新薬開発治験に参加しており、国内における治験の一大拠点です。当院における治験参加患者数は、呼吸器内科が全診療科中で最多となっています。

呼吸器内科で活発に新薬開発治験を実施できるのは、医師だけではなく、ARO次世代医療センター、治験事務局、薬剤部、治験コーディネーターなど、多職種による支援体制が整っているからだと、感謝しています。今後も他の医療機関では提供できない新たな治験機会を患者さんに提示し、大学病院のミッションである新薬開発に取り組んでまいります。



呼吸器内科集合写真

問い合わせ先／092-642-5378（平日のみ　9:00～16:00）

NEWS 03

術後疼痛（とうつう）管理チーム
多職種からなるチームで術後の痛み緩和を目指します

手術部　白水和宏/松岡美恵

2024年度より、術後の痛みの緩和、合併症の減少、早期離床・退院を目的とし、術後疼痛管理チーム（Acute Pain Service：APS）が発足しました。

APSは術後３日間、麻酔科医、手術部看護師、薬剤師、臨床工学技士が連携して病棟回診を行い、適正な鎮痛薬の使用、投与量を評価・改善するものです。対象は術後痛を和らげるために術前に硬膜外腔に細いカテーテルを挿入し、そのカテーテルから鎮痛薬を持続的に投与（PCEA）している症例、もしくは点滴から鎮痛薬を精密機械により投与（iv-PCA）している症例とし、チームで回診を行っています。

当初は婦人科症例に限定して行っていましたが、運用が軌道に乗った8月からは全科のiv-PCA使用症例にも対象を拡大しました。APS発足により、今まで以上に患者さんの訴えに寄り添えるようになったと思います。

このAPSの最大のメリットはチームで診療を行うことです。鎮痛薬の使用により痛みは和らぎますが、吐き気、眠気、かゆみといった好ましくない症状を引き起こすことがあります。そのために、痛みの評価・鎮痛薬投与量の変更など医学的な知識だけでなく、鎮痛薬の副作用、併用薬との兼ね合いなどの薬剤的な知識、元来の疾患や併存疾患に伴う看護的な知識、鎮痛薬投与機材の調整など工学的な知識を集結し多職種で行うことで、多方面からの診療を行うことができます。また、APSは術後疼痛管理に関する看護師の実践の幅を広くするなど、医療者側にもメリットがあります。手術をうける患者さんは術後の痛みに対し不安をお持ちの方が多いと思います。私たち術後疼痛管理チームはそのような不安を少しでも緩和できるように日々心がけ、今後も診療をおこなってまいります。

病棟回診の様子

疼痛管理方針について話し合っている様子

術後疼痛管理チームメンバー

APS
Acute Pain Service

NEWS 04

臨床工学部門のご紹介

臨床工学部門長　定松 慎矢

「縁の下の力持ち」の臨床工学技士の業務

当院の臨床工学部門は、手術部、救命救急センター、集中治療部などを中心に、各診療科病棟、外来を含め病院全体を対象としています。主な業務として、医療機器の操作や保守点検、「生命維持管理装置」を安全かつ的確に操作・管理する役割を担っています。

スタッフは27名（2025年3月現在）おり、医師や看護師などとコミュニケーションを図りながら、スムーズに各業務を遂行できるよう日々努力を続けています。

女性の積極採用と活躍の場の広がり

臨床工学技士の仕事は、「工学（エンジニア）」という文字から男性の仕事というイメージを持っている方も少なくないかと思います。しかしながら、現在は当院に限らず全国的にも、「女性患者に接する際は女性の臨床工学技士の存在が欠かせない」という患者さんファーストの考えから、女性の積極的な採用、活躍の場が広がり始めています。

定松部門長（中央）と女性スタッフ

問い合わせ先／092-642-5515（平日のみ 8:00～16:45）

NEWS 05

令和6年度 第3回 九州大学病院別府病院 市民公開講座を実施しました

九州大学病院別府病院では、診療内容を広く市民の皆さまに公開し、別府病院への理解と信頼を深めていただくため、令和６年12月8日（日）に亀の井ホテル別府にて令和6年度第3回市民公開講座を開催しました。

講座のテーマは「九州大学がお届けする最先端の診断と治療」と題し、座長を病院長・外科診療科長の三森功士教授が務め、3つのテーマで開催されました。194名もの多数の市民の皆さまにご参加いただきました。

講演テーマ

大腸がんの診断と治療 最新の話題と当院での取り組み
外科/助教
大津 甫

心不全の予防と治療
内科/講師
戸伏 倫之

脚の痛みの診断と治療
～腰部脊柱管狭窄症を中心に～
整形外科長/教授
播广谷 勝三

会場の様子

（左から）大津助教、播广谷教授、三森病院長、戸伏講師

TOPICS

NEWS 06

九大病院トピックス

アビスパ福岡 小児医療センター訪問

11月21日、アビスパ福岡の４名のサッカー選手が小児医療センターを訪問されました。

入院中の子どもたちは、アビスパ福岡オリジナルのノートや色鉛筆をプレゼントしてもらったほか、一緒に撮影をしたりサインをもらったりと楽しい時間を過ごすことができました。

アビスパ福岡の選手

寄附者銘板を設置しました

九州大学病院基金にご寄附をいただいた方への感謝の意を表すため、外来診療棟１階に「九州大学病院基金寄附者銘板」を設置しました。

一定額以上のご寄附をいただいた方を対象に、ご芳名を掲載しております。皆様からの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

NEWS 07

九大病院基金へのご寄附のお礼

九州大学病院基金へ多大な貢献をいただきましたことに感謝の意を表し、ご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。

寄附者ご芳名

※2024年9月1日から2024年12月31日までにご寄附をいただいた方のご芳名を掲載しております（五十音順）。公表を希望されない方は、掲載しておりません。

■ 個人の皆様

和泉　早織 様　磯村　芳子 様　稲光　　渉 様　井上　正伸 様　岩尾祐喜子 様　浦田のぞみ 様　大石久美子 様
喜多山　昇 様　田口恵理子 様　武内　成吉 様　東　耕一郎 様　平井　友成 様　福山　和之 様　藤田　敦子 様
宮房　成一 様　矢野　鈴子 様

他11名（計27名）

■ 企業・団体等の皆様

T.K.Kホーム株式会社 様　株式会社西田商事 様

他1企業・団体（計3企業団体）

九州大学病院基金はクレジットカードもしくは金融機関からの振り込みでお受けします。

九州大学病院基金HP　https://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/info/kikin/